

関東支部「秋の見学会」に参加して

関東支部恒例の「秋の見学会」が11月8日(金)～9日(土)、東邦レーヨン(株)三島工場、東芝硝子(株)静岡工場、浜松ホトニクス(株)豊岡製作所をメインとして行われ、39名と2番目に多い参加者を乗せてジャスト・イン・タイム7:45渋谷を出発した(定刻出発は久しぶりの快挙)。常連や顔馴染みが多く「秋の七夕のようだな」と和気あいあい、笑い声とともに、チャーミングな小暮バスガイドの美声に乗って、小雨いま降り始めた東名を一路西に向かう。木邑支部長に「天気は悪いが、これは安江先生達の御努力に対する天のもらい泣き、明日は必ず晴れる」と荒井先生が確約したとの強い言葉に励まされて定刻より早く東邦レーヨン(株)に到着した。田中工場長のパンフレット、OHP及び各種サンプルを使っでの詳細な説明を受けた後、5班に分かれてアクリル繊維(ベスロン)の製造工程の見学を行った。原料が重合され、濾過・精製後白金合金に開けられた極めて多数のノズル穴から凝固液に紡糸原液が押し出され、繊維化されるプロセスに学ぶべき多くの点があった。炭素繊維については「アクリル繊維の設備が化繊7社の内では小さい方であるので、他分野に進出した」とのことで現在国内ではトップと少し差の2位、更に炭素繊維における世界のリーディング・カンパニーとして日、米、欧、大洋州の国際戦略を展開中とのこと。雨が激しくなる中、約30分遅れて東芝硝子(株)に到着した。神谷工場長の概要説明と今回見学が予定されているハロゲンランプ用反射ミラーの真空蒸着工程とハイテク商品である磁性粉(バリウムフェライト)の説明を受けた後2班に分かれて見学に入った。管理の行き届いた工場に新鋭設備が配置され、各所に「人と地球の明日のために」「TP推進でムダをなくして、生産性を2倍にしよう」といった標語が掲げられ、印象に残る点が多かった。雨が小降りになり、あたりが暗くなり始めた15:50分、30分遅れで浜松ホトニクス(株)に到着し、出されたお茶を一気に飲み干して、直ちに3

班に分かれて主力の各種光源、光電変換素子の応用製品各種の説明を受けた。いずれも他の追従を許さない商品が多く、これらを身近に見て、かつ説明を聞くことができたのはラッキーであった。期待の3社の工場見学を有意義に終わり、各人各様の思いを胸に17:20分、静かな入江にそびえ立つ館山寺サンホテルに到着した。各部屋から見下ろす浜名湖の夜景は黒々とした山あり、湖水あり、燦然と輝く遊園地の観覧塔やホテルのネオンなど、雨上がりの夜空に美しく輝いた。恒例の懇親会は、これを目当てに見学会に参加する人が多いほど定評が高く、今回は女性2名参加ということで、一段と盛況で笑い声が絶え間なく続いた。参加多数ということで、自己紹介のスピーチも1分以内に制限され、しゃべり足りない人が続出。印象的だったのは「こんなに楽しい懇親会があるなら来年は仲間を連れてくる」という女性の言葉。この見学会のために大変なお骨折りを頂いた先生方及び幹事の面々には胸にくる何よりの言葉であったと思う。

翌9日は期待したどおりの快晴であったが、部屋によっては夜遅くまで歓談していたためか、反応が鈍いとバスガイドにペソを掻かれ、気合とともにバスは駿河路を出発。浜松美術館のガラス絵、遠州森山焼の晴山窯などを見学し昼食は吉川の高さ10m上にかかる吊橋(5人以上同時に渡ると落下危険ありと脅しの看板あり)をユラユラと渡り、川魚料理に舌鼓を打つ。快晴のポカポカ陽気に気分も最高と最後の資生堂アートハウスを見学し、途中、新雪の富士は見えなかったものの、事故による交通規制のノロノロにもめげず20時前には無事到着。途中で来年の見学希望地区、今回の見学会に対する意見、及び希望月日のアンケートがあり、例年同様の幹事のきめ細かい対応と責任感には頭が下がる思いがする。幹事は「アンケートに基づいて今年にまして良いプランを練る」と決意を披露。木邑支部長始め先生方、安江先生始め幹事の方々、応援の学生達、それに御参加頂いた皆様に心から御礼致すとともに、来年は更に仲間を増やして御参加頂きたく、幹事に代わりお願い致します次第です。

(山本勝三郎 記)



東邦レーヨン(株)三島工場にて